

島のジオとみどころ

『ジオパーク』とは？

硫黄島

1 カルデラ壁
7300年前のアカホヤ噴火によって山体が崩壊してきた断崖。硫黄島の北端にある平家城跡から南西方向に島を横切るように急崖が続き恋人岬へと連続しています。



11 硫黄岳
703mの三島村最高峰の山は、鬼界カルデラが大噴火した後の新しい火山活動によって誕生した山です。現在も蒸気や火山ガスを放出している活火山です。昭和30年代までは硫黄が、昭和50年代からは珪石が採掘され、島の産業を支えていました。現在は休眠しています。



3 熊野神社
平家転覆の密議が明るみになり捕らえられ、硫黄島に配流された平判官康頼と丹波少将成経が勧請した神社。堀ノ浦で入水された安徳天皇が堀ノ浦から逃げ延びて硫黄島に辿り着き、この地に住まれたとされています。仮面神メンドンが登場する神社でもあります。



12 大浦港
鬼界カルデラが大噴火する以前の古い火山活動による長浜溶岩が流れている様子を観察することができます。天然の入り江をつくるように海に流れている岬がそれです。

13 硫黄島港
茶色く濁る港は、鉄分を含んだ温泉が湧き出している証拠でもあります。これは火山活動があるこの島特有の珍しい現象です。海表面が茶色いだけで海の底までは濁っていません。大学の調査により水深数mのところまで温泉が湧き出していることがわかりました。

6 恋人岬(永良部崎)
恋人岬からの硫黄岳と硫黄島の眺望は絶景です。それぞれ違ったマグマによって形成された山であることが比較できます。恋人岬は、カルデラ壁にあたります。



4 俊寛堂
平家の転覆を語り、この島に配流となったとされる僧「俊寛」を祭る御堂です。俊寛は、赦免されることなく島で亡くなったとされていて、その哀しい話は歌舞伎の演目にもなりました。御堂までの昔むした道が俊寛の気持ちをしのばせてくれます。



8 昭和硫黄島
硫黄島の東約2kmの海上にある周囲約1.6km、高さ29mの小島です。昭和9年9月から始まった海底火山の活動によってできました。ヒサカキ、ススキなどの植物がわずかに生える岩だらけの島で、周辺海域は好漁場として知られています。誕生前の地震・崖崩れの頻発、噴煙が上がると、海面を軽石が流れる様子が記録されています。火山島の形成過程を実証する貴重な史跡です。



5 平家城跡(展望台)
平家城跡は、硫黄岳などの噴火活動に由来する堆積物によって形成された台地状の土地です。ちなみに名前は、落ち延びてきた平家の人々が城を築いたことに由来します。

2 岬橋
硫黄島の長浜集落の西側、海に長く突き出した「恋人岬」へと続く橋。標高80mの絶壁の上にはかけられたこの橋から見下ろす長浜湾や硫黄岳は絶景です。



14 磯松崎
硫黄岳が誕生する最初の噴火により発生した溶岩が流れてきた岬です。ゴツゴツとした溶岩が広がり釣りをする人々も多くいます。



9 黒木御所
逃れてきた安徳天皇が居を構えた場所とされています。周辺の街並みは碁盤の目のようになっていて、同行の従者たちが御所を護るために居を構えたとされています。現在、御所内には三島村にまつわる資料が展示されています。

10 安徳天皇御陵(安徳帝)
平安末期、堀ノ浦の戦いで亡くなったと言われていますが、硫黄島へ逃れ、66歳になるまで暮らしていたといわれる安徳天皇のお墓があります。周辺の墓は従者の墓といわれています。



【ジオサイトの分類】
「ジオサイト」とは、ジオパーク内の見どころのことで、自然遺産として価値が認められるものです。ジオサイトには、地質や地形だけでなく、ジオと歴史・文化との関係や、ジオと人々の暮らしとの関係を体感できる場所も含まれています。

- ◎ 地質サイト：大地の成り立ち
 - ◎ 自然サイト：独自の生態系
 - ◎ 文化サイト：人の営み
 - ◎ ビューポイント：いわゆる景勝地
 - ◎ 施設：ジオパークに関連する施設
 - ◎ その他：どれにも当てはまらないもの
- ※マークがないものは、ジオサイトには指定されていません。

三島村・鬼界カルデラジオパーク公式HP
三島村のジオパーク活動や調査報告、各種資料・情報をご覧ください。

三島村公式YouTubeチャンネル
三島村のお祭り・イベント動画・観光情報から島の暮らしををご覧ください。



7 福村岳
硫黄岳の噴火と前後するように誕生した山で、スコリア丘と呼ばれるきれいな円錐形の山です。高さは236mで、頂上まで登ることも可能ですが、途中は竹に覆われています。

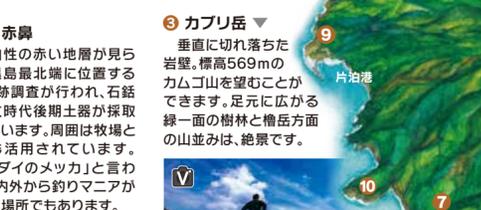
類い希な自然と人間の共存。無垢の風景。

黒島

1 黒島平家城遺跡
平成23年から鹿児島国際大学より発掘調査が行われ、縄文時代後期や平安〜鎌倉時代の土器や石器が発見されています。言い伝えによると、この場所は源氏との争いに敗れた平家の落人たちが黒島に上陸した最初の居住地で、間もなくここを離れて大里と片泊の2つの集落に移住したとされています。集落の起源を語る際に必ず出てくる伝説の場所でもあります。



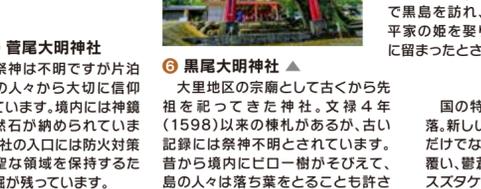
2 赤岬
火山性の赤い地層が見られる黒島最北端に位置する岬。遺跡調査が行われ、石筴や縄文時代後期土器が採取されています。周囲は牧場としても活用されています。「イシダイのメッカ」と言われ、島内外から釣りマニアが訪れる場所でもあります。



3 炭釜跡
炭焼き職人が炭を焼いていた窯の跡。黒島では明治以来、木炭業が盛んであり、島の収入源でした。山中に点在するが、崩れずに残っているのは一つのみとなっています。



9 雷尾大明神社
御祭神は不明ですが片泊集落の人々から大切に信仰されています。境内には神鏡と自然石が納められています。神社の入口には防火対策や神聖な領域を保持するための堀が残っています。



10 堀手鼻
主に安山岩を主体とする柱状節理や塩類風化による特異な景観を見ることができる場所。東シナ海に夕陽が沈むのを見ることができるポイントです。波の浸食によってさらに険しく、その一方で表面の滑らかな印象がやさしくもあります。



3 カブリ岳
垂直に切れ落ちた岩壁。標高569mのカムゴ山を望むことができます。足元に広がる緑一面の樹林と檜岳方面の山並みは、絶景です。



7 イバドンの墓
片泊集落に伝わる平家伝説の遺跡。源氏方の家族の墓で鎌倉期のもの。家族「大庭三郎家政」通称「イバドン」は平家討伐で黒島を訪れ、出会った平家の姫を娶り、この地に留まったとされます。



4 植物群落
国の特別天然記念物に指定されている黒島の植物群落。新しい火山活動の影響が強い竹島や硫黄島と違い、竹だけでなくスダジイ、ヤブニッケイといった高木が山々を覆い、鬱蒼とした森が広がっています。ここが南限となるスズクヤ、トカラ列島等に固有なトカラカンアオイやハランなど固有な植物も生育しています。



竹島

1 オンボ崎
海を隔てて硫黄岳がよく見える眺めのよい場所。遣唐使船が難破し、漂着した人々を助けた伝説のある岬。竹島西側へと伸びる岬で、鬼界カルデラと硫黄島を望める場所。潮通しのいい海岸は大物回遊魚の釣場となっています。



4 ガジマルの門
竹島のシンボルのひとつで、二本のガジマルが道路をはさんで両側から伸びつながり、門のようになっています。



2 竹島墓地
竹島独自の墓の様式が見られ、アカホヤ噴火によって堆積した溶結凝灰岩(竹島石)が石材として使われています。少なくとも江戸時代以降の墓石が点在する墓地で、他では見られない珍しい彫刻が施された墓があります。



10 聖大明神社
天変地異の際に神のお告げがあり建立された、龍宮を祭る神社。鎮座する唐猫は、カルデラ噴火で噴出された溶結凝灰岩で出来ています。八咫踊りや馬方踊りなどの行事が行われる神社。



8 籠港
鬼界カルデラの噴火口の北東縁にあたる断崖を利用した港であり、風化した流紋岩の白い浜が観察できます。



6 井川
水道施設が十分でない頃には、この井川が島民の貴重な水源で、水の使い方が厳しくありました。水源までの石段がへこむほど利用されていました。



7 竹島港
ここでは竹島が形成された際の火砕流や軽石を観察することができます。アカホヤ噴火のプロセスやそれ以前の火山活動の痕跡を容易に観察することができる場所です。



9 大山神社
奈良時代、竹島に漂着した遣唐使船の大使である高田首根麻呂を祭った神社です。この漂着では115人が亡くなったといわれています。



5 赤壁
島の東端に位置する海岸線の露頭で、カルデラ噴火以前の噴火の痕跡が残っています。見事な赤色の断崖には、噴火開始から次第に鎮まってく噴火の推移を読み取ることができます。赤壁のある一帯を「とし」と呼びます。

